

松 楓

祝 50号

令和8年9月1日 発行

題字 故 井上知真元校長

50



水彩画「すみっこ図書館・記(着)念撮影」 24回卒 市川光男

埼玉県立飯能高等学校校歌

一、雲光る

仰ぎみる

若き我らが

ああ限りなく

ここ飯能の

友よいざ

励み鍛へん

三歳の秋を

碧き多峯主

眼差しさやか

生命燃えて

高鳴る胸よ

学びの庭に

師とともに

町田多加次 作詞
鈴木宣彰 作曲

二、夕靄の

縫いめぐる

若き我らが

ああ流れゆく

ここ飯能の

友よいざ

尋ね捜さん

明日の道を

天地の間

人間の水に

思念浮かべ

星霜偲ぶ

学びの園に

師とともに

三、大空は

武蔵野に

若き我らが

ああ暁々と

ここ飯能の

友よいざ

謳い歩まん

青春の日を

暁のいろ

陽はまた昇る

哀歓揺れて

吹く朝風よ

学びの窓に

師とともに

昭和50年制定

※「松楓」とは女学校創立時、松組と楓組の2クラスから始まったことから会報名となりました。

会長就任にあたって

25回卒 会長 中里 敏男
(飯能市在住)



令和8年6月6日に開催されました定期総会におきまして、会長に選任されました中里敏男です。諸先輩方が多くいる中で引き受けさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本年度の総会は、昨年と同様に行われ、飯能高校出身

の地元県議会議員や市議会議員をはじめ学校関係者の皆様も迎え開催いたしました。議案等につきましましては滞りなく行われ終了し、その後は懇親会となりました。同窓会としては、主な事業として毎年同窓会会報「松楓」の発行を行っておりまして、今年度の発行は、第50号の節目となりました。先代の皆様の積み重ねによりこの度を迎えるにあたっては、大変喜ばしいことと

思っております。会報記事としては、特別寄稿やクラス会開催の記事及び各卒業年代別に毎回寄稿等をお願いし、学校情報も寄稿していただき、今回も皆様には大変ご協力をいただきありがとうございます。次回以降も同窓会等の皆様にはお願いすることが多々あるかと思いますが、よろしくお願いします。また、一つの事業として学校文化祭へは今年度も同窓会コーナーを設置させていただき活動してまいります。

そして令和7年度第3回卒業生248名が、同窓会へ加入していただきました。卒業生の皆様にはこれからのご活躍をご期

待いたします。飯能高校は、飯能南高校と統合をして以来、「進学を重視した地域と協働する高校」として開校し、令和8年度で4年目を迎え、目標の一つに「地域と協働する魅力ある学校づくり」があり、文化祭へ近隣自治会の方に入場していただくなど地域連携が進んでいると感じたところです。また、総合的な探究は地元飯能の歴史や文化、魅力ある観光資源等を活用し、探究活動をさらに発展させるため探究部等を設置しています。飯能高校のコンセプトでもあるICT教育は、県内の公立高校でも先駆けて導入しており、特進クラスも設置されています。

生徒の皆様にはこのような方針は、取り組みの一部ではありますがが全体を通して新たな教育目標を推進している飯能高校を卒業し、同窓会メンバーとしてご協力をしていただきますようよろしく願います。

最後になりますが、学校関係者や同窓会の皆様には、今後もご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶



校長 西野 博

いております。重ねて御礼申し上げます。

同窓会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。毎年ご支援いただいております同窓会学校応援事業では、卒業証書フォルダの作成や外部講師の謝金など、本校教育の充実および生徒の学習環境の整備に大切に活用させていただ

校校長を拝命し着任いたしました。100年を超える伝統を有し、さらに新校として大きな期待を寄せられている本校に勤務できることを誇りに思うとともに、その職責の重さを強く実感しております。本校のさらなる発展のため、尽力いたしますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

げます。

近年、本校は同窓生や地域、県民の期待に応えるべく、地域と協働しながら主体的な学びを深める探究活動や文部科学省指定のDXハイスクール事業、さらには生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けた進学指導に取り組んでまいりました。これらの成果は着実に実を結びつつあり、メディアに取り上げられたり、文部科学省のホームページで取組事例として紹介されたりしています。

進学実績につきましても、令和8年度大学入試では、中央大学をはじめとする四年制大学に100名を超える合格者を輩出

しました。先を見据えた進路指導に加え、探究活動の推進が、この成果を支える大きな要因となっております。

さらに、部活動も年々活発になっており、男女ホッケー部がともにインターハイに出場するなど、多くの部活動が地区予選を突破し、県大会等へと駒を進めています。

このように、現在も飯高生は様々な分野でその力を発揮しており、本校のさらなる発展への期待はますます高まっています。これもひとえに、同窓会の皆様のおかげにわたるご支援の賜物と深く感謝申し上げます。結びに、6月6日に開催され

ました令和8年度総会に、私ども管理職をお招きいただき誠にありがとうございました。都築敏夫前同窓会長様のご功績に深く敬意を表しますとともに、中里敏男新同窓会長様をはじめ同窓会の皆様には、引き続き本校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。併せて、本同窓会のさらなるご発展を心より祈念申し上げます。



会長退任にあたって



24 回卒 都築 敏夫
(飯能市在住)

令和8年度の同窓会総会におきまして、任期満了により会長を退任いたしました。在任中は、会員の皆様をはじめ役員の方々、学校関係者のご理解ご協力により会の運営が滞りなくできましたことに、心から感謝申し上げます。

私が同窓会の役員をしている間に、大きな出来事が二つありました。創立100周年の記念事業と飯能南高校との統合です。盛大に行われた100周年の記念事業につきましては、実行委員会委員として参加できたことをたいへん嬉しく思っています。南高校との統合では、私にとって衝撃的なことがありました。それは飯能高校と南高校との統合によって、新設高校を作ることでした。新設高校なので、校名も新しくするということでした。

卒業生にとって、卒業した高校の名前が変わってしまうということは、高校時代のアイデンティティを失うようなものです。絶対に「飯能高等学校」という名前は残さなければならぬという

思いました。

新設校の校名アイディアを募集することになり、募集期間は40日間でした。私は、校名を残すために300人分の「飯能高等学校」という校名アイディアを集めることにしました。友人、知人、近所の人59人に、5人分を集めて欲しいと依頼し、短い期間でしたが304人分を集めることができました。これを県に送りました。「飯能高等学校」という校名アイディアは、469票あったそうです。私に協力してくれた304人の思いがその中に入っています。結果的に「飯能高等学校」は残りました。私の活動が校名を残すことに少しでも役に立ったとすれば、協力してくれた皆さんに心から感謝する思いです。

私は、同窓会の活動の一つとして、学校に直接コミットすることを考えました。その一環として、文化祭「榛の木祭」に同窓会として参加することや、学校見学会、在校生とのフラダンスイベントを行いました。特に、在校生とのフラダンスイベントでは、ホッケー部の女子部員にご協力いただき大成功となりました。ご協力ありがとうございました。

同窓会の役員が何をするのかも知らず役員になりましたが、何とかやってこられたのも、素晴らしい役員の方々と一緒に活動できたからだと思います。

学年は相当離れていても、楽しい会報を作ろう、楽しいイベントをやろうという思いは同じです。役員の方々に本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

申し上げます。
同窓会のますますの発展をご祈念申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

50号記念寄稿

今年度で100歳



高女13卒
原 てる子
(飯能市在住)

9月の第3月曜日は敬老の日です。敬老の日には「多年にわたり社会の発展に寄与してきたことに感謝し、高齢者福祉への関心と理解を深める」目的のもと、年度中に100

歳になられる方に内閣総理大臣から祝状と記念品として銀杯が贈られます。

原てる子さんは昭和2年1月生まれ、まさに今年度100歳を迎えられる飯能高校女学校昭和18年3月卒業生です。

戦前の学制は、義務教育として尋常小学校(6年間)があり、その後は高等小学校(2年間)に進むか高等女学校(4年間)、中学校、高等学校尋常科、実業学校、師範学校への進学道がありました。

原さんは尋常小学校を卒業後、教員を目指されて飯能高等女学校に進学されました。しかし、世の中は戦争のさなかです。男性教員は兵隊にとられ、授



奉安所清掃奉仕

業といえる時間はそう多くはありませんでした。毎朝、中藤(原市場)から自転車で行き、奉安所に一礼してから一日が始まります。覚えているのは勤労奉仕、傷兵慰問、白衣のミシンかけ、野菜作り、遠足という名の行軍(原市場にあった赤沢小学校や越生まで歩く)ばかりでした。それでも、弓道部での校内試合やバケツリレーなど時代を反映した運動会、給食で何度も出してもらったカレーのことは楽しい思い出です。(ご飯は持参していました。)

原さんは11人姉妹の長女です。



「いなしん」 さんへの インタビュー 伸一（飯能市在住）



◎ 高校生活の思い出は？

稲垣さん 原市場から毎日、

自転車通学をして皆勤賞でした。部活は、高校2年生までバレーボール部で楽しく活動をしていました。

高校3年生の頃、世の中では路上ライブが流行っていて「ゆず」や「19」のグループが活躍していました。

◎ 音楽を始めたきっかけは？

稲垣さん 同級生がグループ

を組んで文化祭の後夜祭で「ゆず」のコピーなどを歌っていたのに憧れました。それで、目立たない者同士の同級生、大平翔三さんと組んで「翔一」という

グループを作り、活動を始めました。

◎ どんな活動をされてきたのですか？

稲垣さん 「翔一」として、

飯能駅周辺でライブをしています。そのうちに、声をかけてくれる人がいて都内のライブハウスなどに出演できるようになりました。やっぱり、飯能を盛り上げたいという気持ちが強く、

飯能での活動が中心になりました。市内の色々な方面の方が、後押しや声掛けしてくれました。それで、ツデーマーチなどの飯能のイベントに数多く出演させてもらいました。飯能高

校の文化祭にも出演したことがあります。

「翔一」として二人で

15年くらい活動して、10年前から「いなしん」として一人で活動をしています。

現在は、「いなしん」として「飯能さくらまつり」や「おとフェス」など色々なイベントに出演させてもらっています。また、

飯能市内のレストランでもウクレレ・ギター教室も行っています。



飯能さくらウィーク（中央公園にて）

お母様を早くに亡くされたため、卒業された戦中戦後を家の仕事や弟妹のお世話で休む間もなく働いてくれました。当時女学校に進学するのは優秀で裕福な家の女子でした。教員を目指していた原さんですが、戦争の厳しい時代に耐え家を守り10人の弟・妹さん方を立派に育ててくれたのです。

現在は、同じ飯能高校卒業の息子さんご夫婦と一緒に穏やかに暮らしておられます。訪問リハビリで体操をし、訪問診察、訪問看護を受けながら幸せにお過ごしになっています。

原さんは、背筋が伸び、女学校の様子をよく覚えておられ、しっかりとお話ししてくださいました。ますますお元氣でお幸せに過ごされますよう心からお祈り申し上げます。（ご本人にお話を聞き編集委員がまとめました。）



シンガーソングライター 稲垣 伸一

54 回卒 稲垣



おとフェス 2024



最近では、「翔一」として二人で活動することもあります。
Q 飯能市市民会館大ホールでのコンサート目的は？（令和8年8月23日）
稲垣さん コロナ禍で音楽ができなくなっただけで、気持ちが落ち込んでしまっていました。配信では音楽を届けていました。少しずつ活動をしていく中で、「やっぱり音楽が好きだ」「飯能を盛り上げたい」という思いが強くなっています。昨年、飯能市市民会館小ホ

ールでコンサートを行い、たくさんのお客さんに来ていただきました。
 そして、今年は大ホールのコンサートに挑戦しようと思っていました。飯能高校の生徒さんを招待する予定です。
 最終的には、「飯能フェス」「万人フェス」をやりたいという気持ちがあります。
 飯能を盛り上げたい、飲食店を盛り上げたい、他県から色々な人が来てほしいと思っています。

Q 歌を続けてきて、嬉しかったことや良かったことは？

稲垣さん 歌を続けてきたから、色々な声かけをしてもらい、人との出会いやつながりがありました。自分自身、こんなに豊かに色々な人と関わっていることがとても嬉しいです。元気にもなれます。

介護施設などの訪問で「良かったよ」「楽しかった」などの声をいただくことが良かったです。

そして、高校3年生の時の路上ライブのブームがなかったら、こんな経験は出来なかったし、色々な輪につながっていると思います。

Q 若い時代（高校生）に伝えたいメッセージは？

稲垣さん 皆、夢があると思います。それに向けて、自分で考えて、どんなことでもいいので行動してほしいと思います。Web（ウェブ）などの情報だけに頼らず、人との会話をたくさんしてほしいと思います。人として、豊かになると思います。
 ※6月にインタビューをさせていただいたので、8月23日のコンサート模様をお伝えする事が出来ませんでした。
 また、飯能市PR大使のお声

もかかり、8月3日就任とのことでした。



令和8年度定期総会懇親会にて

6月に、飯能市内でお話を伺いました。

お話を聞いて、音楽で飯能を盛り上げたいという熱い思いがたくさん伝わってきました。

また、今まで関わってきた人たちへの感謝の気持ちを忘れず、人との関わりを大切に思う方だと思いました。

お忙しい中を本当にありがとうございました。

（H・H）

先輩・後輩

飯能高校での思い出



17 回卒

増岡美枝子

(飯能市在住)

私の世代は終戦後のベビーブームで小・中学校は1クラス50人学級でクラスも大変多くて、クラスは活気にあふれて競争心も生まれていたように思います。飯能高校へ入学しているんな地区から通学して来て友人が出来ました。その頃、野球部が強かったので試合の応援に大宮球場等へバスで応援に行きました。高3の時の同級生が前回の東京オリンピックの聖火リレーに選ばれ走りました。その後、40年ぶりに再会して当時の話をし、とても懐かしかったです。

私は英語部でしたので、当時のジョンソン基地へ先生や会員の人と将校宅へ伺いレッスンをしました。異文化にふれられて良い経験になりました。私は飯高の近くに住んでいるので運動部の人達とよく顔を合わせます。若いパワーをもらって応援しています。

飯高の皆さん、同窓生との絆を大切にしてください。これからも大きく羽ばたいていけることを願っています。

ております。飯能高校のさらなる発展をお祈り申し上げます。



同級生がオリンピック聖火ランナーに

卓球を通じて



22 回卒

山崎 國男

(入間市在住)

「聖賀の御幸に光れる御山天覧山の・・・」、飯能高校に入学早々、体育館で応援団の熱心な指導のお陰で半世紀以上経った今でも口ずさめる校歌。この度、会報の原稿依頼を受け、懐かしい飯高時代に思いを馳せる機会をいただきました。

飯高に入学した動機は、母の実家が飯能市にあり、幼いときから飯能にはよく来ており愛着のある中で選択肢の一つとして

決めたように思います。部活は中学校でも所属していた卓球部に入学しました。練習は夜遅くまで続いており、帰りは本数の少ない八高線の時間に間に合わせようと、時にはグラウンドの中を横切る西武線の線路の上を東飯能駅まで走って間に合わせました。卓球部での戦績は先輩方の熱心な指導にもかかわらず良くありませんでしたが、今となれば数々の懐かしい練習風景が思い出されます。合宿では、暑い中、激しい練習が続いても水を飲ませてもらえず、終了後、近くの民家でいただいた井戸水の美味しかったこと。他校との練習試合で負けたために天覧山中段で正座し、蚊に刺されながら先輩のお説教に耐えたこと、多摩主山や宮沢湖までのランニング、また練習以外でも日原鍾乳洞付近でのキャンプ体験や、堂平山での雪の中のハイキング等々、今では厳しかったことも含めて懐かしい思い出となっています。

卒業後は、入間市役所に入所すると同時に卓球部に所属し、県内の市役所対抗試合等に参加するなど卓球を続けることができました。その後、入間市卓球連盟の役員になると、試合よりも運営中心の役割を担うようになり、プレーする機会は少なくなりました。会長を最後に退いた後は勤め仕事も終わり、再び卓球をする機会に恵まれました。

今は2カ所の地区センターや地区体育館において仲間達と一緒に卓球を楽しんでいます。

若い頃先輩に勧められて始めたゴルフも楽しんでいますが、最近、飯高卓球部の後輩達のゴルフコンペに誘われ、懐かしいメンバーと再会する機会に恵まれました。

卓球に出会い、これまで卓球を通じた人の繋がりがあったからこそ、今の自分があると思います。これからも、卓球との出会いに感謝しつつ、限られた人生を楽しんでいきたいと思っています。

幸せの作法について



27 回卒

堀口 幸夫

(飯能市在住)

この寄稿の依頼を受け、高校時代の記憶が次々と脳裏に蘇りました。その大部分がテニス部の出来事で、当時、軟式庭球部(現在は、ソフトテニス部と称しています)の名称で西武線の南側の一角に4面のコートがあり活動していました。部員も少なく最終的に男子部員4名でOBの厳しい指導に耐え、特に1年生最初の合宿は、二度と経験したくない思い出の一つです。それから50数年、今でもテニスを続け大会にも出場しています。

また、微力ながら飯能市ソフトテニス連盟の会長職も仰せつかっています。高校時代のテニス部の経験がその後、携わった消防人生にも生かされ充実した幸せな人生を送れたと思っています。

さて、表題の「幸せの作法について」ですが、人によって幸せの尺度は違うと思いますので、一概には言えませんが、幸せの見つけ方の上手な人を、いくつか紹介したいと思います。何かのヒントになれば幸いです。

1991年の秋、台風が次々上陸して青森県のリンゴが9割も落ちてしまったことがありました。農家の人は、丹精込めた収穫間近のリンゴが落ち嘆き悲しみました。しかし、何とかなる、大丈夫と落胆しない人がいたそうです。その人は、落ちなかったリンゴを「落ちないリンゴ」の名前で受験生に売り出したのです。1個千円で！すると、高いけれど縁起が良いと飛ぶように売れたそうです。また、2016年10月に鳥取県中部地震が発生して特産の梨が大きな被害を受けました。この時も、落ちなかった梨を「合格まちがい梨」として販売し好評を博しました。どんな出来事もプラスとマイナスの部分があります。下に落ちたものに意識を向けず、上に残ったものを見たことが成功の鍵だったのです。

作家の三浦綾子さんは、新婚

時代、最高に豊かで幸せな時代だったと回想しています。それは、「何もなかったから」だと言うのです。一つずつ揃えていく喜びで少しずつ幸せになっていったからと。

戦国時代の有名な句から、「なかぬなら 殺してしまえ ホトトギス」織田信長、「なかぬなら なかせてみせよう ホトトギス」豊臣秀吉、「なかぬなら なくまで待とう ホトトギス」徳川家康。これに対して、お笑い芸人の萩本欽一さんは、「なかぬなら 静かでもいいよ ホトトギス」と詠んでいます。鳴かないことにも幸せを見いだせるのです。

ロシアの文豪ドストエフスキは、「人間が不幸なのは、自分が幸福であることを知らないからだ。ただ、それだけの理由なのだ」と言っています。物の見方や受け取り方、いわば心の持ち様で「幸せ」になったり、そうでなかったりするようです。

私も今後の人生、身近な幸せを探しながら、好きなテニスをいつまでも楽しめるよう健康に留意して謳歌したいと思っています。



私のサッカー人生



32 回卒
武田 昌法
(飯能市在住)

学生時代サッカーはローカルスポーツでした。70年代のゴールデンタイムは家族揃って野球のテレビ観戦でした。

当時の中学校では、サッカー部が部活動に無い学校があり、高校でサッカー部に入学した中では、サッカー未経験者も多数いました。当時のグラウンドは、野球部の外野選手とソフト部の外野選手が交差する中、その間でサッカーの練習をしておりました。

サッカー部へ入学した当時は、部は強豪と呼ばれる位置にはありませんでした。春の大会では県3位の実績を収め、新入団した我々部員たちは驚き、頼もしい先輩たちを尊敬しました。その後、在学3年間は、埼玉県では、一目を置かれるようになりました。埼玉県は浦和地区中心に全国屈指の強豪地区でありました。

日常ではサッカー部の顧問の先生は、サッカーの指導はすることはなく自分たちで練習を考へ行っていました。1年生は体力トレーニングが基本、厳しくきつかったですが、しっかり行ったことが、その先で他校との

差が出たと思っています。

昭和54年埼玉テレビが開局され、全国大会につながる最後の大会の準々決勝よりテレビ放映がされることとなりました。その中、準々決勝と進み、準々決勝でも勝利し、準決勝まで進み、残念ながら決勝までは進出できませんでした。私はこの試合で高校サッカーを終了することとなりました。大変に有意義な3年間を過ごし、輝かしい青春の思い出となりました。

現在、小学生を対象に、指導者としてサッカーを教えており、私自身もプレーヤーとしてシニアで活動もしております。

そのような中で、サッカーの指導を通し、関わった選手が海外でプレーをし、日本代表に選出された選手がおります。

このように子供たちが育ち、子供たち自身の夢をかなえていくことが、指導者としての夢となりました。

多くの子供には、サッカーは生涯スポーツとして、一生続けられるスポーツとしてできることを伝えております。

人生は、ありがとうに気付く旅



37 回卒
中村 桂子
(飯能市在住)

私は7歳の時、東京から飯能

に引っ越してきました。緑豊かで自然あふれるこの街が大好きになりすぐに友達もでき、楽しい幼少期を過ごしました。

その流れで、高校も飯能高校以外の選択肢は

ありませんでした。「3年間、思いっきり楽しもう！」そう決めて、姉と一緒に入学しました。私は一卵性の双子で、家族でも見分けがつかないほどそっくりでした。入学当初、2階で姉とすれ違った男子生徒が、その直後に3階で私とすれ違い、パニックになったと後から聞いた話は、今でも忘れられない思い出です。

2年生になると、クラスにはシドニーオリンピックに出場した川嶋伸二君や、留年して一つ上だった太郎さん、そして出席日数が足りず退学してしまったけんぼーがいました。

担任の新野先生はとても魅力的な先生で、私はこの2年3組が大好きでした。今でも年に一度、クラス会を開いています。子育ても一段落した40歳の時、念願だった大型自動二輪免許を取得し、憧れのハーレーに乗ってツーリングの夢を叶えました。

このまま順風満帆の人生が続くと思っていた矢先、2018



年、癌の告知を受けました。5年生生存率はわずか25%。治療は1年続くと言われました。最初の抗がん剤治療で髪は抜け落ち、自らバリカンを手に取り、人生で初めてスキンヘッドになりました。その後も副作用は想像以上に辛く、「もうやめたい」と思ったこともありましたが、それでも私は、「この病気になるたのには意味があり、その意味には価値がある」と思うようになりました。それから、ただ「生きたい」と願う自分の気持ちと向き合うことが、前を向く力になりました。そして今は、同じように癌と闘う人たちに寄り添い、励まし合いながら治療を続けています。これまでの人生の中で、今が一番頑張っている私。今の自分がいるのは、懸命に治療してくださるドクターの存在、支えてくれる家族、励ましてくれる友人たちのおかげです。

ありがとう。
そして——還暦万歳。

回り道の先に見えたもの



42回卒
清水 克修
(シドニー在住)

飯能高校に入学した当時、私は「いつか海外と関わる仕事になりたい」というまだ輪郭の定まらない夢を胸に抱いていました。具体的な職業像が明確にあったわけではありませんが、まずは勉学に励むことがその夢へとつながると信じて高校生活をスタートさせました。

ところが、そんな私の意志を大きく揺るがす出会いがありました。それがホッケーです。競技の奥深さやスピード感、そして仲間と力を合わせて目標に向かう楽しさにすっかり魅了され、気がつけば放課後も週末もホッケー中心の生活になっていました。

その熱中ぶりの代償として大受験の準備は見事なまでに後回しとなり、結果的に進学までに一年余分に時間を要することになりました。今振り返れば「もう少し計画的にできなかったのか」と思わなくもありませんが、当時の私は至って真剣で、ホッケーに全力を注いだ結果のある意味清々しい遠回りでもありました。

しかしその時間は決して無駄ではありませんでした。チーム

メイト、先輩、後輩、そして恩師である鯨井先生との出会いを通じて得た人とのつながり、努力を積み重ねる姿勢、困難な状況においても投げ出さずに向き合う力は、社会に出た今も私の大きな支えとなっています。

現在私はオーストラリア・シドニーに家族と共に駐在し、多国籍のスタッフを率いて日々奮闘しています。高校時代に漠然と抱いていた「海外で仕事をする」という夢は、回り道を重ねながらも現実のものとなりました。多くの支えや巡り合わせに恵まれながら自分なりに目の前のことに向き合ってきた結果、今振り返ると「意志あるところに道は開ける」という言葉に重なるような道筋になっていたのだと感じています。

卒業アルバムに記した「飯高でよかった」という一言は、卒業するそのとき私が心からそう思っていたものでした。そして卒業から35年以上を経た今でもその気持ちは少しも変わっていません。ここで過ごした時間と経験、人との出会いが確かに今の自分を形づくっている、そう実感するたびに改めて母校への感謝の思いが深まっています。飯能高校の益々のご発展を祈念いたします。



大切な仲間たちとの思い出



52回卒
坂本 好美
(秩父市在住)

飯能高校を卒業してあつという間に時が経ちました。今回、会報のお話を頂き、人生の振り返りをしてみる良いきっかけになりました。

飯能高校との出会いのきっかけは母親の母校という事もあり、秩父から飯能へ通い出しました。何気なく高校を決め、部活は中学からやっていたソフト部と決めていたがソフト部が無く、迷っていた時にグラウンドホッケーにめぐり合い入部!!今思うと高校の大半がこのホッケーで埋めつくされていたと思います。初めてのスポーツに秩父から飯能まで通い、友達も少ないなか毎日毎日必死だった気がします。ホッケー部は先輩、OG、OBが沢山いて高い実績を誇る伝統校なんだと思います。同期は9人!!決して多くない人数でしたが、共に戦ってきた試合の数々をひとつひとつ思い出す事は出来ませんが、一番の思い出は熊本国体へ行った事です。国体という大舞台で一人ひとりの役割をはたすため、厳しい練習を努力してきた経験はかけがえない宝物だと言えます。

あれから30年近くたち、今、

44歳となって思う事は、苦しい時に逃げずに踏ん張る力、仲間を信じ支え合う大切さ、目標に向って努力を積み重ねる姿勢、高校時代の経験は、その瞬間だけのものではなく人生を通して生き続ける財産になる。それを、私は実感しています。

あと、高校生の時よりも感じる事は多くの支えです。現在3人の息子と孫が居ますが、支える・サポートする事は難しいと感じる今日この頃です。親の立場になってあの時の支えの大きさを実感しています。支えてもなかった側から、支える側へ。あの頃の先生方や家族のように、子供達の挑戦を見守り、背中を押せる存在でありたいと思っています。

この先の人生でどんな事が起こるか分かりませんが、高校時代に抱いたあの熱い気持ちを忘れない、自分自身も挑戦し続けていきたいと思っています。年齢を重ねると、つい守りに入ってしまう。それでもあの頃仲間とともに目標に向って走り続けた経験が、もう一歩踏み出す勇気を思い出させてくれています。ありがとう!飯能高校!



飯能高校での思い出を振り返って



62回卒
小田 美恵
(飯能市在住)

飯能高校を卒業していく年か経ったある日、松楓の話を受けました。懐かしい飯能高校での生活、思い出を振り返ってみました。

高校には自転車通勤をしていました。余裕を持って早めに行動することを好んでいた為、登校時間は早かったです。同じ時間帯に登校した友達と喋り語らうことが日々の生活の始まりでした。

勉学は習うことに楽しくなっていたことを今でも覚えています。当初は暗記をすることが得意だったのですが、書き留めたノートや教科書を隅から隅まで覚えてテストに臨んでいました。私は声に出して覚えるタイプの為、家でのテスト勉強では呪文のように唱えていて家族から見たら不思議な光景だったと思います。とにかく色々な教科で知らないことを知ることが楽しく、それが勉強する楽しさに繋がっていました。

行事では沖縄への修学旅行が印象深いです。初めての沖縄は十二月に行きましたが暖かい氣候でした。綺麗な沖縄の海に入ったり、夕食はステーキハウス

で美味しいお肉やゴーヤチャンプルを食べたりしました。ガマに足を踏み入れ、ガマの狭さや暗さ、じめつとした空気を感ぜながら現地の方から戦争について学びました。どの行程も思いう深港く、あつという間の修学旅行でした。

そして私の飯能高校の生活で欠かせなかったのは部活動です。小学校2年生から始めた書道。中学校は残念ながら書道部がなく高校で入部することが出来ました。様々な書体を書くことに没頭し、書き初め展前の冬休みには家の一室にこもって夜まで練習、夜な夜な外の水道で筆を洗っていました。(たまにパトリールをしている近隣の親父会のような人達を通り、私を見て驚いたと思います)字と向き合う時間は楽しいひとときでした。

部活前に餃子パーティーをしたこともありました。顧問の清水先生が持ってきてくれたホットプレートで大量の餃子を焼いて部員で食べ、その後餃子の匂いが充満する部屋で部活を行ったことも良い思い出です。

飯能高校を卒業後は保育士になり保育園で勤務、後に結婚をして引越した先は縁もあって飯能高校の近所でした。懐かしいチャイム音や野球部などの元気なかけ声を聞きながら過ごしています。高校生活3年間はここには書ききれないくらい思い出が沢山あったことを改めて思

います。母校を見守りながら1日1日を大切にこれからも過ごしていきます。この度は貴重な機会を頂きありがとうございます。

大切なおもいで



67 回卒
坂 美穂
(入間市在住)

私は小学、中学と取り組んできたホッケーを高校でも続けたと思います。飯能高校に入部しました。ホッケー部に入部した事で1つの同じ目標に向かって切磋琢磨できる仲間に出会えたり、その目標を叶えようと親身になり指導して頂いた監督やコーチに出会う事ができました。そしてみんなでさまざまな気持ちをつかち合ったからこそ、かけがえのない青春の毎日を飯能高校で過ごす事が出来たと思います。

高校時代はとにかく部活が生活の柱でした。今思い返すと、休みなく毎日朝から晩まで、本当によくホッケーと向き合っていたなと感心すると共に、今の私の誇りでもあり自信です。弱音を吐きそうな時も必ず仲間が側にいてくれたり、平日はもちろん、休日にも指導して下さる監督がいたり、家族が色々な場面で支えてくれたり、当たり前

がむしろ毎日に毎日ホッケーが出来た事が本当に凄く幸せな事だったのだなと思います。

高校を卒業してからは小さい子どもが大好きだったので保育園関係の短期大学に入学しました。卒業してからは夢であった幼稚園教諭の仕事に就きました。社会人1年目は色々な壁にぶつかりましたが、高校時代に身につけた社会性をとても活かす事が出来て、本当に良かったと胸を張って言えます。そんな私がクラスをまとめる先生という立場になった時に大切にしていたのはクラスの「一体感」と周りへの感謝の気持ちです。高校時代、顧問の先生が技術面だけでなく私たちに大切な事を教えてくれた、心に残っていたからこそ社会人になった時に自然と自分の中でも意識していました。友達と一緒に取り組む楽しさ、力を合わせてみんなで出来た！の達成感、助け合う優しさをたくさん伝えてきました。子どもたちとたくさん向き合い、壁にぶつかりたくさん悩む事もありましたがそれ以上に楽しさとやりがいのある楽しい毎日を送る事が出来ました。

今は子育てをしながらお花が好きな事もあり花屋に勤務しています。好きな事を仕事に出来ている感謝を忘れずに、高校時代、常に向上心を持ちがむしゃらに努力していた自分に負けなように、何歳になっても向上心

支えられて見つけた夢



72 回卒
加藤 希星
(世田谷区在住)

私は高校時代、チアダンス部に所属していました。私の高校生活は、まさに部活動中心の日々であり、3年間すべてを懸けて打ち込んだ大切な時間でした。中学3年生の頃、私は将来やりたいことが見つからず、進路に悩んでいました。そんな時、5歳から一緒に踊ってきたダンス仲間、飯能高校のチアダンス部へ誘われ、「楽しそう」という

素直な気持ちで入部を決めました。しかし、実際に入部してみると、それまで経験してきたダンスとはまったく違う「個」ではなく「集団」で一つの作品を創り上げることで、一つひとつの動きや表情まで細部にこだわる

こと。その中で技術だけでなく、人と協力する大切さや最後までやり抜く力を学び、自分自身の新たな可能性を広げることができました。

3年間、大会優勝という目標に向かって仲間とともに全力で走り続けました。苦しいことや悔しいこともたくさんありましたが、努力を続けることができました。

たのは、支え合った部員や友達、熱心に指導してくださった先生やコーチ、そして何より、いつも私を信じて応援してくれた家族の存在があったからです。

また、地域のイベントや学校行事、他部活動の応援などにも数多く参加し、飯能の皆さんとの触れ合いや、多くの仲間との出会いは、今でもかけがえのない思い出です。この3年間を通して、私は「ダンスには人の心を動かす力がある」ということを実感しました。そして、もっと多くの人に自分のダンスを届けたいという思いからダンスの専門学校へ進学し、現在は、ダンサーとしてアーティストのバックダンサーをはじめ、振付師やインストラクターとして活動しています。

現在の活動の中でも、高校時代の部活動で学んだ協調性や責任感、努力を積み重ねる姿勢は、あらゆる場面で生かされています。

私はダンサー、そして振付師として、一人でも多くの人を笑顔にしたいと考えています。ダンスを通して誰かの心に寄り添われる存在でありたい。その思いを胸に、毎日作品づくりに向き合っています。

これからも支えてくださる方々への感謝を忘れず、周りの人を大切にしながら、大好きなダンスとともに歩み続けていきます。

高校生活を振り返って

新高2回卒 鶴賀 美舞

(日高市在住)



私が飯能高校に入学した理由は、同じ中学校の仲の良い友人が多く進学するという、とても単純なものでした。しかし、高校生活では新しい友人との出会いに恵まれ、多くのことに挑戦することができました。1年生では生徒会役員に立候補し、3年生では生徒会長を務めました。文化祭などの学校行事の時期は特に忙しく、自分自身が文化祭を見て回る時間はほとんどありませんでした。それでも、後輩や先生方と夏休みも使いながら企画や準備を重ね、全校生徒が楽しめる文化祭を運営できたことは、大きな達成感とともに高校生活の忘れられない思い出となっています。

高校3年生では、進路について大きく悩みました。進学を考えたものの就職へ変更するか迷い、さらに進学するならどの大学を目指すべきか、もう手遅れなのではないかと不安にな

る時期もありました。そんな時、担任の先生が親身になって相談に乗ってください、最終的に夜間大学への進学を決意しました。進路を決めた時期が遅かったため、小論文や面接の練習を何度も繰り返し、多くの先生方に添削や指導をしていただきました。その結果、年内入試で合格し、無事に大学へ進学することができました。

大学入学当初は期待と不安でいっぱいでしたが、ゼミで出会った友人とは意気投合し、今では二人でUSJへ旅行に行くほど大切な存在になりました。

夜間大学では、昼は大学事務で働き、夜は学生として講義を受ける生活を送っています。最初は慣れない毎日でしたが、今では職場に後輩もでき、頼られる先輩を目指して努力しています。学びながら社会経験も積めることは、夜間大学ならではの大きな魅力だと感じています。残りの大学生活も、一つひとつの選択を大切に、後悔のない学生生活を送りたいと思います。



飯能高校定時制の思い出



定68回卒
美齊津大貴
(飯能市在住)

私にとって、飯能高校定時制で過ごした時間は、今振り返ってみると、とても大切な時間だったと思います。当時の私は、勉強ができるわけでもなく、運動が得意だったわけでもありませんでした。アルバイトは高校4年の時ようやく始められました。何か人に誇れるようなことをしていたわけでもなく、自身に自信を持てない時期でもありました。そんな私が高校を卒業することができたのは、先生方が最後まで支えてくださったからです。うまくできないことがあっても、先生方は見放さず、声をかけてくれました。時には迷惑をかけたこともあったと思います。それでも卒業まで支えてくださった先生方や先輩後輩同級生、今でも本当に感謝しています。当時は、そのありがたさを今ほど理解できていなかったかもしれません。しかし、歳月が経った今だからこそ、「卒業できて本当によかった」と強く感じています。

そして、飯能高校を卒業してから歳月が経ち、現在の私は飯能市議会議員として、飯能市のために仕事をしています。まさ

か自分が市議会議員になるとは、高校生の頃には想像もしていませんでした。勉強も運動も得意でなかった私が、今では市民の皆様からご負託をいただき、飯能市の未来について考え、議会が発言する立場になっていきます。だからこそ、今の自分があるのは、自分一人の力だけではないと思っています。家族や周りの方々、そして何より、あの頃の私を支えてくださった飯能高校の皆との出会いがあったからこそ、今につながっているのだと思います。高校時代の自分に、今の自分を見せたら、きっと驚くと思います。「勉強が得意ではなかった自分が、飯能市議会議員になっている」と。

人生は、その時には分からないことがたくさんあります。うまくいかない時期があっても、誰かが支えてくれていることで、いつか新しい道が開けることもあるのだと思います。飯能高校定時制で過ごした時間と、支えてくださった先生方への感謝を忘れず、これからも飯能市のために、一歩ずつ努力していきたいと思っています。そして、いつか飯能高校定時制の仲間達と共に「飯能高校定時制を卒業してよかった」と、もっと胸を張って言えるような人間になりたいと思います。先生方、本当にありがとうございます。



令和 8 年度 飯能高等学校同窓会定期総会

令和 7 年度 飯能高等学校同窓会 事業報告

事業月日	事業内容
07・04・08	入学式 277名 同窓会会長出席
07・04・19	役員会① ・総会について ・会報について
07・05・08	監査会
07・05・31	役員会② ・総会について ・会報について
07・06・01	定期総会 ・懇親会
07・06・21	役員会③ ・会報発行委員会(松楓49号編集)
07・07・05	役員会④ ・会報発行委員会(松楓49号編集)
07・07・19	役員会⑤ ・会報発行委員会(松楓49号編集)
07・08・02	役員会⑥ ・会報発行委員会一校正
07・08・23	役員会⑦ ・会報発行委員会二校正
07・08・30	役員会⑧ ・松楓49号発送作業
07・09・01	会報「松楓」49号発行
07・09・07	文化祭参加
07・10・25	役員会⑨ ・会報について反省
07・11・01	フラダンス体験<<新規事業>>
08・01・31	役員会⑩ ・会報について ・総会について
08・02・14	役員会⑪ ・会報について ・総会について
08・03・10	第3回入会式 (248名) 役員5名出席
08・03・11	卒業式 同窓会会長出席
08・03・14	役員会⑫ ・会報について ・総会について

令和 7 年度 飯能高等学校同窓会 収支決算書

収入の部 (自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日) 単位: 円				
科目	予算額	収入済額	比較増減	摘要
会費	1,245,000	1,240,000	△5,000	令和7年度卒業生 (248名×5,000)
繰越金	4,696,891	4,696,891	0	前年度から
会報定期購読収入	30,000	31,000	1,000	令和7年度新規分 (31名×1,000)
賛助金	10,000	66,000	56,000	8名
雑収入	109	45,130	45,021	預金利子7,130 100周年記念誌代38,000 (19冊×2,000)
合計	5,982,000	6,079,021	97,021	

支出の部 単位: 円				
科目	予算額	支出済額	比較増減	摘要
会議費	70,000	53,642	16,358	役員会 32,080 入会式 21,562
総会費	100,000	74,910	25,090	
会報発行費	800,000	501,515	298,485	松楓49号 (9月1日発行)
慶弔費	30,000	0	30,000	
事務費	50,000	16,950	33,050	文具代 2,915 コピー代 7,950 手数料 6,085
事業費	250,000	250,000	0	学校応援事業
研修費	50,000	32,268	17,732	フラダンス体験研修会
保守管理費	130,000	121,000	9,000	サーバー保守料データ管理料
備品費	350,000	0	350,000	
預立金	350,000	350,000	0	学校応援事業等基金積立金
予備費	3,802,000	0	3,802,000	
合計	5,982,000	1,400,285	4,581,715	

収入合計6,079,021円－支出合計1,400,285円＝4,678,736円 (令和8年度へ繰越し)
【財産目録】 普通預金 4,678,736円
定期預金 (学校応援事業等基金) 1,000,909円

令和 8 年度 飯能高等学校同窓会 事業計画

事業月	事業内容
08・04	入学式 同窓会会長出席
08・04	役員会 ・定期総会資料検討 ・会報発行委員会(松楓50号)
08・05	監査会
08・05	役員会 ・定期総会資料検討 ・会報発行委員会(松楓50号)
08・06	定期総会
08・06	役員会 ・会報発行委員会(松楓50号 寄稿文依頼確認作業)
08・07	役員会 ・会報発行委員会(校正作業1)
08・07	役員会 ・会報発行委員会(校正作業2)
08・08	役員会 ・会報発行委員会(発行最終チェック)
08・08	役員会 ・松楓発送準備作業
08・09	会報「松楓」50号発行・発送
08・09	文化祭参加
08・10	役員会
08・11	役員会 ・研修会
09・01	役員会
09・03	第4回入会式 同窓会役員出席
09・03	卒業式 同窓会会長出席
09・03	役員会 ・事業内容反省会等

令和 8 年度 飯能高等学校同窓会 予算

収入の部 (自 令和8年4月1日 至 令和9年3月31日) 単位: 円				
科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会費	1,250,000	1,245,000	5,000	令和8年度卒業予定者 (250名×5,000)
繰越金	4,678,736	4,696,891	△18,155	前年度から
会報定期購読収入	30,000	30,000	0	松楓定期購読収入 (30名×1,000)
賛助金	10,000	10,000	0	
雑収入	264	109	155	預金利子等
合計	5,969,000	5,982,000	△13,000	

支出の部 単位: 円				
科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会議費	70,000	70,000	0	役員会
総会費	100,000	100,000	0	
会報発行費	800,000	800,000	0	松楓(50号)印刷
慶弔費	30,000	30,000	0	
事務費	50,000	50,000	0	事務用品等
事業費	250,000	250,000	0	学校応援事業等
研修費	100,000	50,000	50,000	
保守管理費	130,000	130,000	0	サーバー保守料データ管理料
備品費	100,000	350,000	△250,000	
積立金	350,000	350,000	0	学校応援事業等基金積立金
予備費	3,989,000	3,802,000	187,000	
合計	5,969,000	5,982,000	△13,000	

【基金残高】 学校応援事業等基金 1,000,909円

次回 同窓会総会
令和 9 年 6 月 5 日(土)



令和 8 年 6 月 6 日(土)に、「極和美味 暖らん」にて飯能高校同窓会定期総会が開催されました。
飯能高校からは、西野校長先生、田口教頭先生、滝沢事務部長も参加され、35名にて行われました。
そして、第2部として開催されました懇親会にもほとんどの方が参加し、楽しい交流の場となりました。
来年度の同窓会総会予定につきましては改めてご連絡をさせていただきます。

令和 8 年度 総会開催

卒業生からのお知らせ

後藤瑛子先生の米寿を祝う会

昭和48年度入学の生徒が集い、3月28日に先生が3年間にわたり担任を務められた2クラス合同での開催となりました。当日は先生を含む31名が参加し、思い出話に花を咲かせながらクラスの垣根を超えた交流を深める楽しいひとときとなりました。

先生からは多くの励ましと学びをいただき、改めて感謝の気持ちを共有できる素晴らしい会となりました。先生のますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

28回卒3年1組クラス会

8年ぶりに、8月16日(土)にクラス会を徳樹庵飯店で開催いたしました。参加者は22名。懐かしい顔を見つけては再会を喜び、また高校時代の顔を思い出しながら名前を確認して話し始めたり、笑ったり驚いたりして、楽しい時間を過ごしました。



久しぶりに会っても、素直に楽しめる時間はあつと言間に過ぎ、2年後の再会を約束して終わりました。
新野代里子

32回卒3年6組クラス会

令和8年2月28日クラス会を開催しました。

平成16年にクラス会をした時は22年ぶりで15名、それから10回。クラス会を重ねてきましたが、コロナでその年は中止。あれから8年。

今回のクラス会には、15名集まり、あの頃の話や身体の話、親の介護の話等あつという間の3時間でした。60代になりあと何回出来るだろうと考える歳となり、こうして再会できることに感謝し、いつまでも元気に又逢おうとお別れしました。(平成



22年には、恩師を交えての学年同窓会が行われました)
吉川真由美



同窓会会員の皆様にお知らせしたいことや写真等がございましたら、飯能高等学校同窓会ホームページのお問い合わせからご連絡ください。

Homecoming Day

「みんなで踊ろう フラダンス」報告



榎本先生のフラダンスの歴史とその表現についてのお話の後、フラダンス体験となりました。

先生がお持ちになったスカートを着用して気分は「アロハ〜」。基本のステップいくつかを習ってから「月の夜は」という曲に合わせて、少しずつ踊り、最後には一曲皆で音楽に合わせて、なんとか踊りきりました！ヤッター！

在校生の明るい生徒さん達といっしょで、とっても楽しかったです。



令和7年11月1日(土)
参加者
生徒(ホッケー部・女子) 11名
一般(卒業生・保護者・女性) 5名
役員(男性2名・女性4名) 6名
榎本先生1名とアシスタント 3名
総合計 26名

令和7年度「榛の木祭」参加報告

令和7年9月7日(日)、榛の木祭に参加しました。教室棟2階の渡り廊下隣の通路に、「同窓会コーナー」を設置し、懐かしい学校行事や校舎の写真を多数掲示しました。当日は現役生のご家族だけでなく、多くの卒業生の方々が足を止めてくださいました。「この行事、覚えている!」「昔はこんな感じだったね」といった賑やかな声があちこちで聞かれ、世代を超えて思い出に花を咲かせる温かい空間となりました。お立ち寄りいただいた皆さま、本当にありがとうございました。同窓会では今後も、母校や会員の皆さまを繋ぐ様々な活動を企画してまいります。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



飯高文化祭「榛の木祭」に行って
昔の写真を見にいこう! Part2

日時 令和8年9月5日(土) 9:30~15:00
場所 2階通路(同窓会コーナー)

同窓会事務局からのお知らせ

住所等変更届

住所、氏名等が変更になったときは、事務局又は下記のアドレスにご連絡ください。

*同窓会ホームページお問い合わせアドレス
hankou.dousoukai@gmail.com

ホームページのご案内

パソコン又はスマホから「飯能高校同窓会」で検索しますと、ご覧いただくことができます。是非とも、多くの方にご覧いただきますように。



飯能高校同窓会 検索

新生飯能高校 第3回 同窓会入会式

令和7年度の卒業証書授与式の
前日、令和8年3月10日（火）
に同窓会入会式が行われ248
名が入会しました。



原稿・写真募集 投稿者には、スゴイ特典

同窓会では、「松楓」の原稿を募集しています。テーマは、高校時代の思い出や現在の様子など何でもかまいません。文字数は800字程度でお願いします。また、昔の飯高の写真なども募集しています。ご応募いただいた写真はお返しいたします。応募を希望する方は、役員に連絡するか、同窓会のホームページからご連絡ください。

採用させていただいた方の特典として、掲載号から5年間「松楓」をお送りいたします。

創立100周年記念誌の販売

創立100周年記念誌は、残数限りとなりますが、1冊2000円にて販売しております。

ご購入をご希望される方は、飯能高等学校同窓会ホームページのお問い合わせからご連絡を頂くか、あるいは左記のメールアドレスまでご連絡ください。

E-Mail: hankou.dousoukai@gmail.com

尚、お申し込みの際には、必ず、ご住所、お名前、電話番号をご連絡いただけますようお願いいたします。



「松楓」定期購読 賛助金の申し込み

- 郵便局の「払込取扱票」でお申し込みいただけます。
 - 払込取扱票は、役員または飯能高校の事務室窓口で配布しています。
 - 振込手数料は無料です。
- 飯能高校同窓会では、同窓生の様子や学校の近況を、多くの会員の方々に知っていただくため、毎年会報「松楓」を発行しています。
- この「松楓」は、定期購読（5年間10000円）できます。
- また、同窓会の活動に賛助していただける皆様に、賛助金をお願いしています。
- 定期購読料、賛助金は、郵便局の払込取扱票で振り込むことができます。払込取扱票は、同窓会役員または飯能高校事務室窓口で配布しています。
- 定期購読、賛助金とも手数料は同窓会が負担し無料です。

令和8年度 同窓会役員一覧

顧問	西野 博(校長)
(新)	
会長	本橋憲一郎(高20回卒)
	澤田 清志(高23回卒)
	都築 敏夫(高24回卒)
(前会長)	
中里 敏男(高25回卒)	
(前副会長)	
副会長	市川 光男(高24回卒)
(事務局長)	
新野代里子(高28回卒)	
(会報)	
吉田 実(高35回卒)	
(総務)(前会報委員)	
矢島幸一郎(高35回卒)	
(前会報委員)	
幹事	豊田 美子(高35回卒)
	嶋田 一幸(高36回卒)
	若林 淳子(高30回卒)
	奥田由記子(高30回卒)
	谷ヶ崎艶子(高24回卒)
監事	鯨井 暢(高28回卒)
会報委員	新井 康雄(定24回卒)
	平沼 文男(定26回卒)
	細田 宏子(高28回卒)
	吉川真由美(高32回卒)
(新)	
小林 一美(高35回卒)	
(新)	
校内理事	小澤 真帆(高65回卒)

令和8年度 学校の近況について



教頭
田口 聡旬

今年度、本校は新校として4年目を迎えました。今年3月には、新校で学んだ生徒たちが卒業し、進学や就職など、それぞれの新たな道へと歩み始めました。これまで3年間の取組を振り返りながら、生徒一人ひとりがより充実した高校生活を送ることができるよう、教職員一同、さらなる教育活動の充実に努めてまいります。

本校の魅力を中学生や地域の皆様に広く知っていただくため、広報活動にも引き続き力を入れています。学校公式インスタグラムでは、生徒たちの学校生活や活動の様子が伝わる動画を積極的に発信しております。

今年の4月から7月までにフォローワーが約1800人増え、約3000人となりました。

また、5月30日放送のテレビ番組「出沒！アド街ツク天国」



薬物乱用防止講演会

では、グラウンドを線路が横切るように見える本校の特徴的な景観が紹介されました。さらに、7月22日から26日まで丸広百貨店飯能店で開催された物産展では、本校の歴史を紹介するパネル展示が行われました。その準備に際しては、同窓会から貴重な写真をお貸しいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本校では学習活動の充実はもちろん、部活動にも熱心に取り組んでいます。今年度はホッケー部が男女ともにインターハイ出場を果たしました。また、野球部も地域の皆様をはじめ多くの方々から温かい応援をいただき、夏の大会でベスト32に進出しました。

生徒たちは日々、目標に向かって懸命に努力しています。今

後とも、地域の皆様や同窓会の皆様のお力添えをいただきながら、生徒一人ひとりがたくましく生きる力を育んでまいりたいと考えております。

引き続き、本校の教育活動への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



新入生歓迎会

4月 遠足(24日)

1年生は、伊香保グリーン牧場でBBQ等を行い、クラス内で交流を深めました。2年生は修学旅行に向けて東京駅に集合し、班ごとに計画を立てて都内各所を見学しました。3年生は東京ディズニーランドに行き、親睦を深めました。どの年次も生徒の楽しんでいる表情を見ることができました。



PTA 総会

5月 PTA総会(9日)

当日は、公開授業の後、各種委員会、総会が開催されました。令和7年度の事業・決算報告、令和8年度の事業・予算案は無事に承認されました。

◎今後の主な学校行事

9月5日(土) 榛の木祭(文化祭) 一般公開、同窓会ブースの設置も計画しておりますので、ぜひ御来場ください。

10月30日(金) 体育祭、毎年盛り上がる学校行事です。生徒同士が力を合わせて優勝を目指します。

◎部活動の大会実績等

令和8年度

(6月中旬までの主な活動状況)

ホッケー部

男子 関東大会5位

インターハイ出場決定

女子 関東大会3位

インターハイ出場決定

卓球部

女子団体 県大会出場

女子シングルス 県大会出場

女子ダブルス 県大会出場

陸上競技部

男子 走幅跳 県大会出場

男子 走高跳 県大会出場

女子 砲丸投 県大会出場

女子 七種競技 県大会出場

女子 100mH 県大会出場

ソフトテニス部

男子個人戦県大会出場

野球部

春季県大会出場

選手権埼玉大会ベスト32

写真部

写真連盟写真展 優良賞・奨励賞

令和7年度

ホッケー部

男子 インターハイ出場

女子 関東大会出場

チアダンス部

関東大会出場

母校だより

バレーボール部

顧問 久保 貴之
桑原 結



バレーボール部は、現在1年生9名、2年生6名の計15名で活動しています。バレーボールは、一人の力では勝つことのできない競技です。仲間を信頼し、プレーをつなぐことで得点につながるため、日頃から声掛けやコミュニケーションを大切にし、チームワークを高めながら練習に励んでいます。

私たちの目標は「県大会出場」です。その目標に向けて、部員たちは年次を問わず声を掛け合い日々の練習に取り組んでいます。このチームの強みは、年次の壁を越えて仲が良く、普段の活動でもお互いに支え合える関係を築いていることです。先輩後輩がお互いを尊重し、協力しながら一つの目標に向かって努力しています。

また、技術の向上だけでなく、礼儀や挨拶、周囲への感謝の気持ちをも大切に、人としても成長できるように心がけています。

試合では、練習の成果を発揮できるときもあれば、悔しい思いをすることもあります。どのような経験も次につなげられるよう、仲間と声を掛け合いながら努力を続けています。県大会出場という目標は決して簡単なものではありませんが、15名全員が同じ方向を向き、日々の練習を大切にしていきます。

これからも「つなぐ心」を大切に、仲間との絆を深めながら、目標に向かって挑戦を続けてまいります。同窓生の皆様におかれましては、今後とも部員への温かいご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

剣道部

顧問 長谷川 誠
西川 夏実



剣道部は、現在3年生6名（男子5名・女子1名）、2年生2名（男子2名）、1年生4名（男子1名・女子3名）の計12名で活動しています。今年度も意欲的な新入部員を迎え、新たな顧問のもとで新体制がスタートしました。経験者・初心者問わず、一人ひとりが目標を持ち、仲間と切磋琢磨しながら日々の

稽古に励んでいます。活動は週4日行っており、基本稽古から応用練習、地稽古まで段階的に技術を高めています。また、経験豊富な細野先生にもご指導いただく機会があり、専門的な助言を受けながら技術の向上に努めています。

剣道は「礼に始まり礼に終わる」武道です。日々の稽古を通して、礼儀や忍耐力、集中力を身につけるとともに、相手を尊重する心や最後までやり抜く力を育んでいます。学年を越えて互いに教え合い、励まし合う雰囲気があり、技術だけでなく人間的にも成長できる部活動です。

今年度は、関東高等学校剣道大会県予選会個人戦への出場を果たしました。現在は県大会でのさらなる活躍を目標に掲げ、一人ひとりが目標達成に向けて真剣に稽古に取り組んでいます。今後とも、地域の皆様、保護者の皆様の温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

よろしく
お願いいたします。



令和8年度人事異動

(退職)

教諭 山本 頌悟
教諭 中野 法子
事務主任 宮本小百合

(転出)

校長 矢島 得充(新座高校)
教頭 發智 祐助(川越市教育委員会)
教諭 松丸 侑里(所沢高校)
教諭 及川愛理沙(所沢西高校)
教諭 坂田 直弥(所沢中央高校)
業務主事 鈴木 茂夫(狭山経済高校)

(転入)

校長 西野 博(川越女子高校)
教頭 田口 聡旬(県教育局)
教諭 大野恵里花(入間向陽高校)
教諭 島野 京子(日高高校)
教諭 西川 夏実(新座高校)
教諭 樋口 孝博(狭山清陵高校)
教諭 川田 柚奈(新採用)
教諭 河野 慧(新採用)
主事 熊谷 清(小川高校)
業務主事 後藤 礼介(所沢西高校)



パソコン教室の改修工事について

このたび、飯能高校では生徒の学習環境の向上と教育内容の充実を図るために、パソコン教室の改修工事を実施いたしました。

改修前のパソコン教室では、座席間の通路が狭く、移動時に生徒同士の衝突や機材に接触が生じやすい点に加え、教員の視点から生徒の手元操作が死角となりやすく、円滑な個別指導を行う上で課題がございました。

今回の改修では、机配置および生徒の動線を見直し、十分な学習スペースを確保いたしました。これにより、これまで懸念していた衝突等のリスクを解消し、安全性が大幅に向上いたしました。

また、教員が各生徒の進行状況を的確に把握し、より丁寧かつ円滑な指導を行う体制が整いました。

さらに、新機材として「3Dプリンター」と「レーザーカッター」を導入いたしました。情報Ⅱの授業等で活用を予定しており、従来の学習内容からさらに一歩進んだ、より実践的かつ、創造的な学習が可能となります。新環境のもと、生徒が高度な情報活用能力を育めるように邁進いたします。



3D プリンター



改装前



改修後

同窓会理事名簿追加

(第3回卒業生 同窓会理事)

令和8年3月卒業(新3回)された同窓生の中から、左記の方が理事となりましたので紹介いたします。

学年代表	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組
	黒澤 愛翔	比留間翔太	木崎 稜大	菅沼 捺己	高橋 悠叶	山崎 琥大朗	大野 田 涼	佐藤 健悠
			古谷 胡春	矢島 由唯	萩野 琉成	小林 拓翔	浅見 暢之	守屋 透吾
								木川 明衣
								森川 愛結
								木崎 稜大



今回50号の植物とカエルのイラストは「3びきのあまがえる」シリーズ(世界文化社)、『みんなのかきのみ』(福音館書店/ちいさなかぐのとも2025年11月号)など出版されたかわしまはるこさん・37回卒の作品を転載いたしました。

編集後記

50回目を迎えた同窓会会報誌「松楓」の発行にあたり、多くの卒業生の皆さまから、高校時代の思い出や現在の暮らしについて心温まるご寄稿をいただきました。深く感謝申し上げます。

ページをめくるたびに、時代や歩んだ道は違っても、あの頃の仲間を思う気持ちや青春の輝きは今も変わらないことを感じます。

この「松楓」が、懐かしい思い出を振り返り、新たな交流のきっかけとなれば幸いです。

Y・T

〔編集委員〕(◎編集委員長)

中里 敏男	吉川真由美
市川 光男	小林 一美
◎新野代里子	若林 淳子
吉田 実	奥田由記子
細田 宏子	矢島幸一郎
新井 康雄	豊田 美子
平沼 文男	嶋田 一幸

会報「松楓」第50号

令和8年9月1日

編集・発行 埼玉県立飯能高等学校同窓会

発行責任者 会長 中里 敏男

印刷 (有)ミネ五十子印刷